

ICTの活用方法を限定せず、「自己調整」しながら学びを進める利用(タブレットの使用や学び方を自己選択させる)

第2学年

連立方程式(割合)

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- タブレットを使う生徒やノートに記述したことをカメラ撮影して提出する生徒など、自分に合った使い方を判断する姿がありました。
- 配信機能で追加の問題をタブレット上に配信された追加問題に、自分で取り組むのか、仲間と教え合うのかを自分で選択して学習を進める姿がありました。

タブレット端末の使用を自己選択させることによる効果

個人追究の際に、タブレットを使うかどうかを生徒自身に選択させる。ノートに記述した生徒は、カメラ撮影して共有できるようにする。

- ・タブレット上では自分の考えをうまく表現できない生徒が一定数存在するという学級の実態を考慮し、タブレット、ノートどちらを使用してもよいこととする。
- ・ノートに記述した生徒の考えも共有できるようにカメラ機能を活用して一覧表示する。



教師の指導のポイント

- 学級の実態に即して、ICT機器の使用を自己選択できるように工夫する。
- タブレットを使用しない生徒も使用した生徒と同じように学習を進められるようにカメラ機能を活用する。

タブレット上に追加問題を配信することによる効果

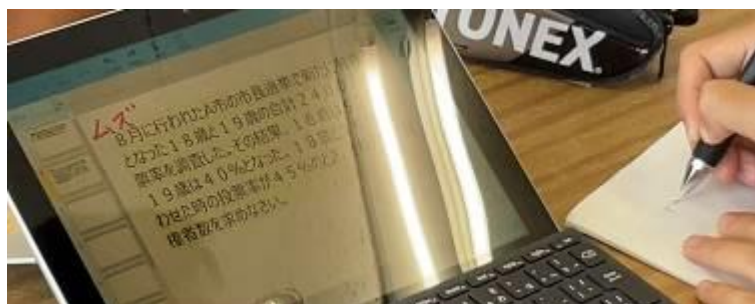


タブレット端末をノートのように用いて、自分の考えを説明したり、学級全体の考え方を整理したりする。

- ・タブレットの拡大縮小機能を活用し、仲間へ説明する際に、操作しながら説明したり、聞いたりできるようにする。

協働学習支援ツールの配信機能を用いて、追加の練習問題を配信し、一人一人の学習状況に応じて問題に取り組む。

- ・練習問題に正解した生徒が、学びを止めることなく、自ら学習を進められるように、追加の問題をタブレット上に送付する。
- ・追究の方法も自己選択させる。



教師の指導のポイント

- 学級全員の考え方を一覧表示し、「〇〇さんと似ている考え方はどれですか？」などと、共通点に着目させる発問をして、「表に整理すること」の大切さに気付かせる。
- タブレット上に追加問題を配信し、定着状況に関わらずどの生徒も時間いっぱい取り組める工夫をする。
- また、取り組み方も、個人で追究したり、仲間と教え合ったりと自己選択して取り組めるように工夫する。